

2023 年度 通常総会議事録

表記の総会が、2023 年 4 月 22 日（土）17 時 55 分より北海道大学学術交流会館講堂とオンライン（Zoom）のハイブリッドにて、瀬尾会長を議長として開催された。出席者 40 名（内訳：現地 23 名，オンライン 17 名）に委任状により表決権を委任した者 116 名（議長委任 116 名）を加え出席者は 156 名であることから，出席者が 2023 年 3 月 31 日の正会員数 432 名の 10 分の 1 以上となり，会則第 15 条により総会は成立した。以下の事項が報告・承認された。

I. 応用統計学会 2022 年度 事業報告（2022. 04. 01～2023. 03. 31）

1. 概況

2022 年度は，瀬尾隆 会長・渡辺美智子 副会長と 13 名の理事，および松浦正明，水田正弘の両監事の体制で活動した。

財務状況は若干の赤字であった。

2022 年度中の会員の入会，退会状況は，入会者数 31 名（内訳：正会員 17 名，学生会員 14 名），退会者数 12 名（内訳：正会員 11 名，学生会員 1 名）であった。また，学生会員から正会員への変更は 1 名，正会員から名誉会員への変更は 1 名，除籍者 9 名（内訳：正会員 9 名）であった。

この結果，会員数は 2022 年度末現在で 432 名である。内訳は正会員 397 名，学生会員 24 名，名誉会員 11 名である。また，賛助会員 5 社，機関・団体購読は 32 件である。

正会員，学生会員と名誉会員を足した会員数の推移は次のとおりであり，会員増への方策の検討が必要である。

	2016 年度末	2017 年度末	2018 年度末	2019 年度末	2020 年度末	2021 年度末	2022 年度末
会員数	499 名	451 名	426 名	432 名	437 名	422 名	432

2. 総会の開催

2022 年 5 月 12 日（木）17 時 40 分より東京都葛飾区東京理科大学葛飾キャンパス図書館大ホールとオンライン（Zoom）のハイブリッドにて，富澤貞男 会長を議長として開催された。出席者 43 名に委任状により表決権を委任した者 118 名（議長委任 118 名）を加え出席者は 161 名であることから，出席者が 2022 年 3 月 31 日（木）の正会員数 422 名の 10 分の 1 以上となり，会則第 15 条により総会は成立した。

3. 評議員会

2022 年度の定例評議員会は，新型コロナウイルス感染症の影響により，オンライン会議（Zoom）によって 2022 年 5 月 9 日（月）に開催した。新旧合同の定例評議員会を開催するにあたり，旧評議員会で出席者 23 名に委任状により表決権を委任した者 5 名を加え出席者は 28 名となった。また，新評議員会で出席者 24 名に委任状により表決権を委任した者 6 名を加え出席者は 30 名となった。旧評議員数は 29 名，新評議員数は 30 名であることから，新旧共に出席者が過半数を超え，会則第 24 条により評議員会は成立した。椿広計 氏を議長に選出し，総会に付議する事項等の審議と報告などが行われた。

2023 年 3 月 23 日（木）にはオンライン会議（Zoom）にて臨時評議員会を開催した。出席者 18 名に委任状により表決権を委任した者 12 名を加え出席者は 30 名となり，出席者が過半

数を超え、会則第 24 条により評議員会は成立した。富澤貞男 氏を議長に選出し、学会誌「応用統計学」の発行回数変更に係る細則の改正等の審議が行われた。

4. 理事会

新型コロナウイルス感染症の影響により対面と Zoom のハイブリッドによる理事会を 8 回 (2022 年 4 月, 6 月, 8 月, 10 月, 12 月, 2023 年 1 月, 2 月, 3 月) 開催し、学会の運営に関する事項、会員の入退会に関する事項、学会などの後援や協賛に関する事項について審議した。

5. 機関誌編集

「応用統計学」Vol.50 の No.2&3, Vol.51 の No.1&2 の 2 冊を発行した。掲載原稿は、Vol.50 の No.2&3 では 3 編 (総合報告 1, 原著論文 2), Vol.51 の No.1&2 が 6 編 (研究ノート 2, フォーラム 3, エッセイ 1) である。総ページ数の推移は次のとおりである。

巻	44	45	46	47	48	49	50	51	平均
総ページ数	187	122	176	128	104	162	155	89	140.4
論文数*	3	11	8	5	5	11	8	6	7.1

*掲載された記事の数 (総合報告, 研究論文, 原著論文, 覚え書き, 事例研究, 統計計算, フォーラム, 研究ノート, エッセイ)

6. 応用統計学会論文賞の選考

「応用統計学」に掲載された論文から選考し、以下のように学会論文賞を 2022 年度年会の学会賞表彰式にて授与した。また、受賞記念講演を 2022 年 9 月の連合大会で開催された企画セッション内で実施した。

優秀論文賞：受賞者辞退のため該当者なし

奨励論文賞：川上裕大 (共著者：黒木学)

クラスタワイズ多変量カーネルリッジ回帰分析法とその応用, 50 (1), 1-20.

7. 年会

2022 年度年会を 2022 年 5 月 12 日 (木) に東京都葛飾区東京理科大学葛飾キャンパス図書館大ホールとオンライン (Zoom) のハイブリッドで開催した。

5 月 13 日 (金) に応用統計学会主催による「スパース推定の最新の展開」をテーマとしたチュートリアルセミナーにおいて、廣瀬慧 氏 (九州大学 マス・フォア・インダストリ研究所), 松井秀俊 氏 (滋賀大学データサイエンス学部) による 2 講演が行われた。参加者は延べ 273 名 (日本計量生物学会：会員 155 名, 非会員 11 名, 学生 42 名, 応用統計学会：会員 45 名, 非会員 7 名, 学生 13 名) であった。

年会では、一般講演 3 件, 特別講演 2 件, 学生セッション 6 件, ポスターセッション 3 件の発表が行われた。学生セッションの中から最優秀発表賞 1 名と優秀発表賞 1 名を選出し、ポスターセッションの中から優秀ポスター発表賞 1 名を選出した (*が受賞対象者)。

最優秀発表賞

*柚木慎太郎・谷岡健資・宿久洋 (同志社大学)

複数アウトカムに対する Weighting approach を用いた処置効果の推定について

優秀発表賞

*平石麻友・谷岡健資・宿久洋 (同志社大学)

Rank-based multivariate cluster elastic net について

優秀ポスター発表賞

*川上裕大・新垣隆生・黒木学（横浜国立大学）

Identification and Estimation of the Probabilities of Potential Outcome Types Using Covariate Information in Studies with Non-compliance

参加者は延べ109名（会員59名，非会員10名，学生38名，日本計量生物学会会員2名）であった。

参加者数の推移は次のとおりである。

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年	2021年	2022年
参加者数	64名	71名	55名	43名	66名	中止	115	109

8. 応用統計学フロンティアセミナーの開催

応用統計学フロンティアセミナー「ビッグデータ解析と社会実装の新潮流～AI/機械学習・応用統計学が拓くDXの今～」を2023年1月26日（木）に統計数理研究所（セミナー室1）とZoomのハイブリッドで開催した。参加者数は75名（会員26名，非会員24名，学生20名，学校教員5名）であった。講演は以下のとおりである。

丸山宏氏（花王株式会社）

「Software 2.0 とデジタルトランスフォーメーション」

柴山和久氏（株式会社Agoop）

「コロナ禍における人流統計分析について（ビジネス街、繁華街、住宅地、観光エリアの人流変化）」

阿部博史氏（ネプラ株式会社）

「情報デザインで扉を開け！～ビッグデータ・AIによる”鮮やかな”社会課題解決～」

なお，共催・後援団体は以下のとおりである。

共催：統計数理研究所

後援：一般財団法人 日本統計協会，統計関連学会連合，一般社団法人 日本品質管理学会，東京理科大学 理数教育研究センター

9. 統計関連学会連合大会

統計関連学会連合大会を2022年9月4日（日）～8日（木）に成蹊大学で開催した（主催：応用統計学会・日本計算機統計学会・日本計量生物学会・日本行動計量学会・日本統計学会・日本分類学会）。会場で応用統計学会の広報のブースを設営した。

参加者数は延べ1,405名（チュートリアル参加者数271名，市民講演会参加者数166名，本大会参加者数968名）であった。本学会の企画セッションとして，応用統計学会学会賞受賞者講演（オーガナイザー：南美穂子（慶應義塾大学），姫野哲人（滋賀大学））と，応用統計学会企画セッション「カーネル型推定の最近の発展」（オーガナイザー：前園宜彦（中央大学））を行った。

大会参加者総数とチュートリアルセミナー参加者の推移は次のとおりである。

年	度	2017	2018	2019	2020	2021	2022
大	会	836名	1,275名	1,114名	1,448名	1,402名	1,405名
チュートリアルセミナー		170名	143名	143名	335名	384名	271名

※ 2022年の数字は統計関連学会連合のウェブページでの報告

10. 関連学会等との後援・協賛事業

合計4件（後援3件，協賛1件）

2022年度に後援・協賛した行事は次のとおり。

- ・ 日本TRIZ協会 第18回日本TRIZシンポジウム2022（協賛）
- ・ 慶應義塾大学SFC研究所 第15回データビジネス創造コンテスト（後援）
- ・ 慶應義塾大学SFC研究所 第16回データビジネス創造コンテスト（後援）
- ・ 日本学術会議公開シンポジウム『数理・データサイエンス・AI時代における統計科学の教育及び研究について』（後援）

11. 関連学会等への協力と協調

以下の各連合組織に当学会より担当する理事又は特別任務を担当する学会員を指名し，各委員会に出席するなど協調を行った。

(1) 統計関連学会連合

理事会（理事：瀬尾隆 会長，渡辺美智子 副会長），

事業委員会（中西寛子 理事，青木敏 会員，生亀清貴 会員，藤井良宣 会員）

(2) 統計関連学会連合大会

2022年度大会

組織委員会（瀬尾隆 会長，渡辺美智子 副会長）

プログラム委員会（前園宜彦 会員，山本紘司 理事），運営委員会（篠田覚 会員）

(3) 一般社団法人 日本計量生物学会

2022年度日本計量生物学会年会を後援，チュートリアルセミナーを共同主催

(4) 横断型基幹科学技術研究団体連合

2022年度 代議員（渡辺美智子 副会長）

(5) 統計教育連携ネットワーク

連携学会として参加

(6) リスク研究ネットワーク

機関メンバーとして参加

(7) 統計検定（一般財団法人 統計質保証推進協会）

協賛学会として協力

(8) 一般社団法人 データサイエンティスト協会

特別会員として協力

12. ホームページおよびメーリングリストの充実

ホームページを逐次更新し，学会員への情報公開を円滑にした。また，メーリングリストによる情報公開を行った。

13. 情報誌

学会員の情報交換や意見交換になる情報誌「応用統計学会 information」のNo.4とNo.5を学会ホームページ上に掲載した。

14. 名誉会員

2022年度の名誉会員については，公募の結果，鎌倉稔成氏が名誉会員となった。2023年度の名誉会員についても，2022年度中に公募を行った。

15. 大内賞候補者の推薦

2022年度の大内賞候補者を理事会として承認し、学会から推薦した川崎茂氏が受賞された。

16. 会費滞納者への対応

長期会費未納者に対して、除籍処分を行った。

その他の事業については応用統計学会のホームページをご覧ください。

Ⅱ. 2022年度会計報告

応用統計学会会則に基づき、2022年4月1日より2023年3月31日までの会計経理を報告する。

1. 収入の部

勘定科目	決算額	予算額	差額
1. 会費収入	2,101,000	2,022,500	78,500
(1) 正会員	1,936,000	1,860,000	76,000
(2) 名誉会員	12,500	15,000	▲ 2,500
(3) 学生会員	52,500	27,500	25,000
(4) 賛助会員	100,000	120,000	▲ 20,000
2. 雑誌売上収入	198,000	210,000	▲ 12,000
3. 広告料	60,000	120,000	▲ 60,000
4. 掲載料	560,000	50,000	510,000
5. 年会等関係収入	1,136,475	1,413,000	▲ 276,525
(1) 年会収入	256,953	363,000	▲ 106,047
(2) チュートリアル収入	536,722	600,000	▲ 63,278
(3) フロントアセミナー収入	167,000	450,000	▲ 283,000
(4) 2023年度年会等収入	175,800	0	175,800
6. 雑収入(著作権料・利息等)	106,983	74,000	32,983
当期収入合計	4,162,458	3,889,500	272,958
前期繰越金	6,546,099	6,546,099	0
収入合計	10,708,557	10,435,599	272,958

2. 支出の部

勘定科目	決算額	予算額	差額
1. 機関誌関係費	1,678,026	2,170,000	△ 491,974
(1)印刷費	1,258,950	1,750,000	△ 491,050
(2)校正費	294,000	240,000	54,000
(3)通信・発送費	125,076	180,000	△ 54,924
2. 年会等関係費	1,145,024	1,250,000	△ 104,976
(1)年会支出	392,774	400,000	△ 7,226
(2)チュートリアル支出	447,816	450,000	△ 2,184
(3)フロンティアセミナー支出	265,455	400,000	△ 134,545
(4)2023年度年会等支出	38,979	0	38,979
3. 管理費	1,151,449	1,050,000	101,449
(1)事務委託費	750,000	750,000	0
(2)消耗品費	61,567	110,000	△ 48,433
(3)会議費	58,001	40,000	18,001
(4)雑費	251,972	120,000	131,972
(5)事務合理化費	20,900	10,000	10,900
(6)選挙費	9,009	20,000	△ 10,991
4. 役員旅費補助	95,960	50,000	45,960
5. 関連学会協調事業費	70,000	120,000	△ 50,000
(1)関連学会年会費	20,000	20,000	0
(2)横幹連合年会費	50,000	50,000	0
(3)連合大会企画セッション支出	0	50,000	△ 50,000
6. 学会賞	53,246	80,000	△ 26,754
7. 謝金	11,000	40,000	△ 29,000
8. 「学会ホームページ」改修費	0	1,400,000	△ 1,400,000
当期支出合計	4,204,705	6,160,000	△ 1,955,295
【参考】当期収支差額	△ 42,247	△ 2,270,500	2,228,253
次年度繰越金	6,503,852	4,275,599	2,228,253
支出合計	10,708,557	10,435,599	272,958

2023年度への繰越金の内訳

項目	2022年3月31日現在	2023年03月31日現在
銀行預金	2,005,327	699,555
郵便振替	4,540,772	5,804,297
現金	0	0
合計	6,546,099	6,503,852


会計監査報告書


応用統計学会 殿

応用統計学会会則に基づき、2022年4月1日より2023年3月31日までの会計経理を監査した結果、会計報告のとおり相違ないことを認めます。

2023年4月10日

監事

水田 正弘 

松浦 正明 

Ⅲ. 応用統計学会 2023 年度 事業計画(2023.04.01～2024.03.31)

1. 機関誌の発行

「応用統計学」Vol.51 の No.3, Vol. 52 の No.1 と No.2 を発行する.

2. 情報誌の発行

「応用統計学会 information」No.6 と No.7 を発行し、ホームページに掲載する.

3. 応用統計学会論文賞等の授与

「応用統計学」に掲載された論文の中から優秀な論文に学会賞（優秀論文賞，奨励論文賞）を授与する．また年会の学生セッション（口頭発表）の中から最優秀発表賞と優秀発表賞，ポスターセッションの中から優秀ポスター発表賞を授与する．優秀論文賞と奨励論文賞の各受賞者は統計関連学会連合大会における企画セッションで講演を行う．

4. 年会の開催

2023 年の 4 月 22 日（土）に北海道大学学術交流会館講堂とオンライン（Zoom）のハイブリット開催の予定である．また，4 月 21 日（金）にはチュートリアルを開催予定である．なお，2024 年度年会の開催場所は応用統計学会が担当する予定である．

5. 応用統計学フロンティアセミナーの開催

2023 年度のフロンティアセミナーのテーマ，時期および開催場所については検討中である．

6. 応用統計学シンポジウム等の開催

2023 年度のシンポジウム等のテーマ，時期および開催場所については検討中である．

7. 統計関連学会連合大会での企画セッション

2023 年度統計関連学会連合大会（応用統計学会・日本計算機統計学会・日本計量生物学会・日本行動計量学会・日本統計学会・日本分類学会が主催）が 2023 年 9 月 3 日（日）～7 日（木）に京都大学吉田キャンパスで開催される予定である．企画セッションとして当学会は，

- 「高次元統計解析の最近の発展」（オーガナイザー：西山貴弘（専修大学），山本紘司（横浜市立大学））
- 応用統計学会学会賞受賞者講演（オーガナイザー：南美穂子（慶應義塾大学），星野崇宏（慶應義塾大学））

を企画運営する．

8. 研究集会

必要に応じてその他の研究集会を開催・支援する．

9. 学会員への情報公開

ウェブページやメーリングリストを活用して，学会員への情報公開を有効かつ円滑に行う．

10. 広報活動

会員の募集のための広報活動を，連合大会（ブースの設置）や適切な媒体を使って行う．

1 1. 学会ホームページ

更なる機能向上を目指し、学会のホームページを更新する予定である。

1 2. 関係学会等との協調

以下の団体への加盟を継続し協力すると共に、その他関係学会との協調を促進する。

- (1) 統計関連学会連合
- (2) 日本計量生物学会
- (3) 横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）
- (4) 統計教育連携ネットワーク
- (5) リスク研究ネットワーク
- (6) 統計検定（一般財団法人 統計質保証推進協会）
- (7) データサイエンティスト協会

1 3. 名誉会員

名誉会員の公募と選考を行う。

1 4. 選挙

2024-2025 年度の会長、副会長、評議員の選挙を実施する。

1 5. 理事会、評議員会、総会の開催

2023 度は新型コロナウイルスの影響により、評議員会は 2023 年 4 月 17 日（月）にオンライン（Zoom）開催する。総会は年会終了後に開催し、年会をハイブリッド開催とするため、総会もハイブリッドでの開催とする。総会時に名誉会員に対する審議を行う。

また理事会はハイブリッドやオンライン（Zoom）、メール等によって必要に応じて開催する。

以上

IV. 2023年度予算案

1. 収入の部

勘定科目	2022年度予算	2022年度実績	2023年度予算
1. 会費収入	2,022,500	2,101,000	2,010,000
(1) 正会員	1,860,000	1,936,000	1,845,000
(2) 名誉会員	15,000	12,500	10,000
(3) 学生会員	27,500	52,500	55,000
(4) 賛助会員	120,000	100,000	100,000
2. 雑誌売上収入	210,000	198,000	210,000
3. 広告料	120,000	60,000	90,000
4. 掲載料	50,000	560,000	250,000
5. 年会等関係収入	1,413,000	1,136,475	850,000
(1) 年会収入	363,000	256,953	250,000
(2) チュートリアル収入	600,000	536,722	150,000
(3) フロンティアセミナー収入	450,000	167,000	0
(4) 2023年度年会等収入	0	175,800	0
(5) シンポジウム等収入	0	0	450,000
6. 雑収入(著作権料・利息等)	74,000	106,983	100,000
当期収入合計	3,889,500	4,162,458	3,510,000
前期繰越金	6,546,099	6,546,099	6,503,852
収入合計	10,435,599	10,708,557	10,013,852

・1. 会費収入 … 個人会員の会費納入率を過去の実績に基づき93%として以下のように算出

(1) 正会員 … 369名(397名×0.93)×5,000円=1,845,000円

(2) 名誉会員 … 4名×2,500円=10,000円(原則、会費は無料であるが、発送希望者の4名分は会費が必要。)

(3) 学生会員 … 22名(24名×0.93)×2,500円=55,000円

(4) 賛助会員 … 5件×20,000円=100,000円

・2. 雑誌売上収入 … 35件×6,000円=210,000円として算出

・3. 広告料 … 3号分(Vol.51, No.3; Vol.52, No.1, No.2)を発行予定として90,000円で算出

・4. 掲載料 … 過去の実績に基づき算出

・5. 年会等関係収入

(1) 年会収入 … 2021年度と2022年度の実績に基づき算出

(2) チュートリアル収入 … 2021年度(日本計量生物学会主催)の実績に基づき算出

(3) フロンティアセミナー収入 … 2023年度は会費無料予定のため、収入は0円

(4) 2023年度年会等収入 … 2023年度年会・チュートリアル参加費等について2023年3月31日までの収入

(5) シンポジウム等収入 … 2021年度フロンティアセミナーの実績に基づき算出

・6. 雑収入 … 過去の実績に基づき算出

2. 支出の部

勘定科目	2022年度予算	2022年度実績	2023年度予算
1. 機関誌関係費	2,170,000	1,678,026	1,690,000
(1)印刷費	1,750,000	1,258,950	1,200,000
(2)校正費	240,000	294,000	340,000
(3)通信・発送費	180,000	125,076	150,000
2. 年会等関係費	1,250,000	1,145,024	770,000
(1)年会支出	400,000	392,774	350,000
(2)チュートリアル支出	450,000	447,816	50,000
(3)フロンティアセミナー支出	400,000	265,455	100,000
(4)2023年度年会等支出	0	38,979	0
(5)シンポジウム等支出	0	0	270,000
3. 管理費	1,050,000	1,151,449	1,227,000
(1)事務委託費	750,000	750,000	750,000
(2)消耗品費	110,000	61,567	90,000
(3)会議費	40,000	58,001	60,000
(4)雑費	120,000	251,972	160,000
(5)事務合理化費	10,000	20,900	17,000
(6)選挙費	20,000	9,009	150,000
4. 役員旅費補助	50,000	95,960	100,000
5. 関連学会協調事業費	120,000	70,000	70,000
(1)統計関連学会連合年会費	20,000	20,000	20,000
(2)横幹連合年会費	50,000	50,000	50,000
(3)連合大会企画セッション支出	50,000	0	0
6. 学会賞	80,000	53,246	60,000
7. 謝金	40,000	11,000	40,000
8. 「学会ホームページ」改修費	1,400,000	0	700,000
小計	6,160,000	4,204,705	4,657,000
9. 予備費	4,275,599	6,503,852	5,356,852
当期支出合計	10,435,599	10,708,557	10,013,852

・1. 機関誌関係費・・・3号分(Vol.51, No.3; Vol.52, No.1, No.2)として以下のように算出

(1)印刷費・・・過去の実績に基づき算出

(2)校正費・・・3号分(Vol.51, No.3; Vol.52, No.1, No.2)の240,000円とJ-STAGEデータ作成費100,000円

(3)通信・発送費・・・過去3年間の平均 $((234,948+91,493+125,076)/3=150,506)$ 円に基づき算出

・2. 年会等関係費

(1)年会支出・・・2021年度と2022年度の実績に基づき算出

(2)チュートリアル支出・・・2021年度(日本計量生物学会主催)の実績に基づき算出

(3)フロンティアセミナー支出・・・2023年度は会費無料予定のため支出を抑えることを検討

(4)2023年度年会等支出・・・2023年度年会・チュートリアルに関して2023年3月31日までに支出した額

(5)シンポジウム等支出・・・2022年度フロンティアセミナーの実績に基づき算出

・3. 管理費・・・基本的に過去3年間の平均に基づき算出

(3)会議費・・・2022年度実績に基づき算出

(6)選挙費・・・前回選挙があった2021年度実績に基づき算出

・4. 役員旅費補助・・・2022年度の実績に基づき算出

・5. 関連学会協調事業費・・・統計関連学会連合年会費20,000円と横断型基幹科学技術研究団体連合年会費50,000円で算出

・6. 学会賞・・・優秀論文賞(30,000円), 奨励論文賞(10,000円), 名誉会員証, 賞状, 証書フォルダ等

・7. 謝金・・・シンポジウム等での講演者への謝金

・8. 「学会ホームページ」改修費・・・外部委託業者の見積りに基づき算出

V. 学会賞の報告

第1次選考, 第2次選考の結果, 以下の論文が選出された.

優秀論文賞:

Vol. 51, No. 1&2, 1-18. (2022)

「経時測定データに対する非負値行列因子分解によるソフトクラスタリングについて」

佐藤 健一

奨励論文賞:

Vol. 50, No. 2&3, 75-101. (2021)

「多変量極値分布の大規模アンサンブルデータへの適用-2流域の極端洪水の同時生起確率推定」

田中 智大 (共著者: 北野 利一)

VI. 名誉会員の推挙

川崎 茂 氏

推薦理由：

川崎茂氏は2012-2013年度に応用統計学会会長を務められ、復興支援のため2013年度年会を福島市で開催するなどの学会運営のリーダーシップをとられた。会長退任後も2014-2017年度に無任所理事を務められ、本学会活動の発展に尽力された。

川崎氏は、1975年に当時の総理府統計局に採用され、長く統計局に勤務され、総務省統計局長を務められた官庁統計分野の第一人者である。若い頃の応用統計研究としては、国勢調査結果に同居児法を適用した属性別出産力の推計結果、公的統計集計におけるホットデック法の決め付け誤差の評価方法に関する考察などがある。また、管理職になられてからは、海外で使用されている小地域推計法（状態空間、時系分析などの手法を使用）などを紹介し、統計局での集計への応用を示唆し、若手職員がそれを実現するなど、官庁統計分野における統計技術の応用に貢献した。日本大学経済学部教授に移られてからは、統計手法の教育に尽力された。

川崎氏は、国際統計協会理事、国際公的統計学会会長、日本統計学会会長、総務省統計委員会委員、国連統計委員会議長なども務められ、公的統計における統計技術の普及などにも尽力されてこられ、これらの業績から2022年度には大内賞を受賞されている。

このように川崎氏が官庁統計部門での統計学応用において果たしたリーダーシップは、卓越したものであり、応用統計学会に対する貢献も顕著である。

以上の理由から応用統計学学会名誉会員に推挙する。